



再萌芽が 見受けられます

《現象について》

10月の降水量は、2週連続で大型台風が襲来したこともあり、**過去10年で最も多い年(管内平均545mm、過去10年平均219mm)**となりました。特に川根の抜里地区では666mmと平成12年の観測開始以来最高値を観測しました。この長雨の影響で、一部の茶園で炭そ病の発生が見られましたが、カンザワハダニの発生は抑えられているようです。ただし、カンザワハダニの発生が少ない場合は、単為生殖(雌が単独で子を作る)により、固体数を増やすため、注意が必要です。また、7月の降水量が少なかった影響で、秋整枝後に露出した葉の小型化が目立ちます。このような現象が見られた年は、年内中に再萌芽(五茶芽)が多く出現します。

《再萌芽の処理》

再萌芽数が多少(全体の20%程度)であっても翌年の収量・品質にはほとんど影響しません。今の時期は、**基本的に放任し、翌春化粧ナラシ**で除去するようにしてください。春整枝の時期は、萌芽期の5日～60日前とし、南部では2月下旬～3月上旬、中山間地では3月上旬～中旬です。深さは、秋整枝よりも浅く、越冬した芽を切らないように注意してください。また、摘採機の刃は十分研いでおきましょう。

《フルートMCの使用上の注意》

※散布時期1～3月

近年、フルートMCの普及と効果により、クワシロカイガラムシの発生が抑えられています。しかし、**使用方法を誤ると害虫に対して抵抗性を生み、薬剤効果**

を落す恐れがあります。使用方法等を再確認し、正しく使用するようにしましょう。

- ① **希釈倍数や散布液量、使用時期などを遵守し、クワシロカイガラムシ用ノズルなど適切な器具を用いて、散布ムラが生じないように処理しましょう。**
- ② **浸透移行性がありませんので、散布後に伸長した枝上でクワシロカイガラムシが発生した場合は、随時ほかの殺虫剤(登録農薬)で防除してください。**
- ③ **他の農薬や液肥、展着剤との混用は絶対にしないでください。効果が発揮されない恐れがあります。**
- ④ **散布ムラは効果不足の原因になりますので、散布の際は茶樹内部までムラなく濡れているか確認してください。**

